



身近な
自然を
守る会

『きみの棲む里、わたしの故郷』

善王寺長岡アベサンショウウオ生息地保護区指定記念講演会

◆日 時 平成18年10月29日(日) 13:30~16:30

◆会 場 京丹後市アグリセンター大宮 多目的ホール
(京都府京丹後市大宮町口大野228-1)

◆プログラム

第1部 アベサンショウウオと保護の取組

基調講演：『アベサンショウウオとはどんな生きものか』

京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授 松井 正文

活動報告：『現地における保護の取組』

アベサンショウウオを守る会 田村 和夫

第2部 身近な自然を守る取組

『よみがえれ離湖、守ろう鳴砂（琴引浜）』

京丹後市立島津小学校 5・6年生のみなさん

『キノコからみた丹後の自然』

丹後キノコクラブ 田中 明男

『豊かな自然との対話ー「アユモドキカムバック大作戦」を中心にー』

NP0法人 亀岡 人と自然のネットワーク 増田 浩

『京都府の「絶滅のおそれのある野生生物」を守る取組について』

京都府自然・環境保全室 井上 壽・島 純一

(敬称略)

※アベサンショウウオクイズやアベサンショウウオなどの写真パネルの展示もあります。

◆参加方法 申込み不要。どなたでもご参加できます。
(参加費無料)

【主 催】環境省 近畿地方環境事務所

【後 援】京都府、京丹後市・京丹後市教育委員会

【お問い合わせ】環境省 近畿地方環境事務所 野生生物課（高橋・小関）



「きみの棲む里、わたしの故郷」

基調講演 「アベサンショウウオとはどんな生きものか」

京都大学大学院 人間・環境学研究科:松井 正文 教授

希少な野生生物「アベサンショウウオ」とはどんな生きものでしょう。

アベサンショウウオの発見の歴史や名前の由来、姿形や生態についてご紹介するとともに、その希少性や保護に関する問題点についてお話しします。

..... 発表者のみなさんからのひとこと

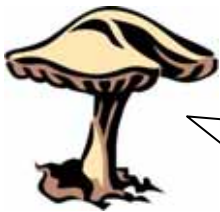


アベサンショウウオの生態観察を継続するとともに、今後は、生息地周辺の里山の整備を行っていきたいと考えています。

アベサンショウウオを守る会:田村 和夫さん

今後は、より一層保護者や地域と連携し、学校で行っている“点”の取組を“線”や“面”へと広げていくとともに、美しい郷土に誇りと夢を持ち、人や自然に優しい行動が取れる児童の育成を目指したいと考えています。
「明るく、楽しく、前向きに」の精神で環境問題を考え、「まずはできることから一つずつ」を合言葉に実践していきたいと思っています。

京丹後市立島津小学校:東垣 茂夫 校長先生



現在、舞鶴若狭湾同好会の会報にキノコに関する連載を行っているほか、年2～3回の観察会(同定)の開催や大鍋でのキノコ汁作りを行っています。今後は、次の世代の子ども達に、キノコの森の大切さや、キノコの役目、働きなどを伝えていきたいと考えています。

丹後キノコクラブ:田中 明男さん

亀岡には40種にのぼる淡水魚が暮らしています。天然記念物「アユモドキ」は、その豊かな淡水系のなかで細々と生活史を綴っています。さかなの住みよい環境は、私たち人間にとっても住みよい環境に間違いありません。今後も自然との良好な共生関係を願って地域貢献できればと考えています。

亀岡 人と自然のネットワーク 増田 浩さん



京都府内には約1万種の野生生物が生息生育していますが、そのうち既に100種が絶滅し、808種が絶滅の危機に瀕していることが、京都府レッドデータブックで明らかになりました。そのなかには、アベサンショウウオはもとより、タガメやゲンゴロウ、メダカといった、かつては私たちのまわりで普通に見られた生き物が入っていることに驚かされます。京都府ではこれら絶滅のおそれのある野生生物を保全する条例を制定するための取組をすすめており、その状況をご紹介します。

京都府企画環境部自然・環境保全室:井上 壽さん・島 純一さん